



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会 2010年(平成22年)12月25日号 No.1516

目次

■ FIFAワールドカップ・ロシア大会開催決定に寄せて.....	服部 倫卓 1
■ キーパーソン	13
ウクライナとキルギスの政権人事/13	
■ トピックス	14
日清食品、ロシア企業へ追加出資/14	
■ エトセトラ	15
『調査月報』2011年1月号のご案内/15	

FIFAワールドカップ・ロシア大会開催決定に寄せて

ロシアNIS経済研究所

服部 倫卓

はじめに

国際サッカー連盟(FIFA)は12月2日、スイスのチューリッヒで開いた理事会で、2018年および2022年のFIFAワールドカップ(W杯)開催国を決定した。その結果に接し、本誌読者の多くは、「1勝1敗」という思いを抱いたのではないか。2022年の開催地は中東のカタールに決まり、日本はあえなく落選した。しかし、2018年の開催地が、我々の関心対象国であるロシアに決まったからである。

ロシアにとって2018W杯は、単に世界的なスポーツ大会が来るというだけでなく、国が近代化を遂げていくうえでの大きな節目になると予想される。また、関連需要により、日ロ経済関係が拡大することも期待されよう。

そこで本稿では、ソ連時代から今日に至るまでのロシア・サッカーの歩みをおさらいしたうえで、2018ロシアW杯の開催都市および会場、投資コスト等につき報告し、さらに大会を成功させるための課題について論じることとする。